

[事例・資料]

佐賀県におけるインフルエンザの流行 (2013/14シーズン)

ウイルス課 安藤 克幸 野田 日登美 大串 和弘
角 典子

○佐賀県感染症発生動向調査事業におけるインフルエンザの発生状況調査 (2013/14 シーズン) および集団発生状況調査の概要は以下のとおりであった。

○ウイルス検出・分離

2013年10月から2014年3月まで、県内定点医療機関(インフルエンザ・小児科・基幹病原体定点)におけるインフルエンザ様疾患患者(以下、散発事例)98名の鼻・咽頭ぬぐい液と県内の保健福祉事務所管内におけるインフルエンザ集団発生事例(以下、集団事例)5事例31名のうがい液など、計129検体について、インフルエンザウイルスの検出・分離を行った。

○ウイルス分離

インフルエンザウイルス分離にはMDCK細胞を用い、分離株の同定は国立感染症研究所から分与された診断用試薬キット、モルモット赤血球を用いたHI試験により行った。

○ウイルス遺伝子検出法 (RT-PCR 法等)

- ・鼻咽頭ぬぐい液からのインフルエンザRNA抽出法は、濃縮キットを使用した。
- ・うがい液からのインフルエンザRNA抽出法は、10mlをAmicon Ultra-15で濃縮し容量を0.5ml以下にした後、濃縮キットを使用して抽出した。
- ・インフルエンザウイルスの検出は、国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに従ってリアルタイムPCR法およびコンベンショナルRT-PCR法を実施した。

○結果

1) インフルエンザ患者の発生状況

①散発事例

佐賀県感染症情報センターによる2013/14シーズンのインフルエンザ患者報告数は図1のとおり、最近の傾向と同様に流行のピークが1月にシフトしていた。

②集団事例 (図1、表1)

佐賀県インフルエンザ学級等閉鎖情報による2013/14シーズンの集団発生は、表1のとおりであった。

[事例・資料]

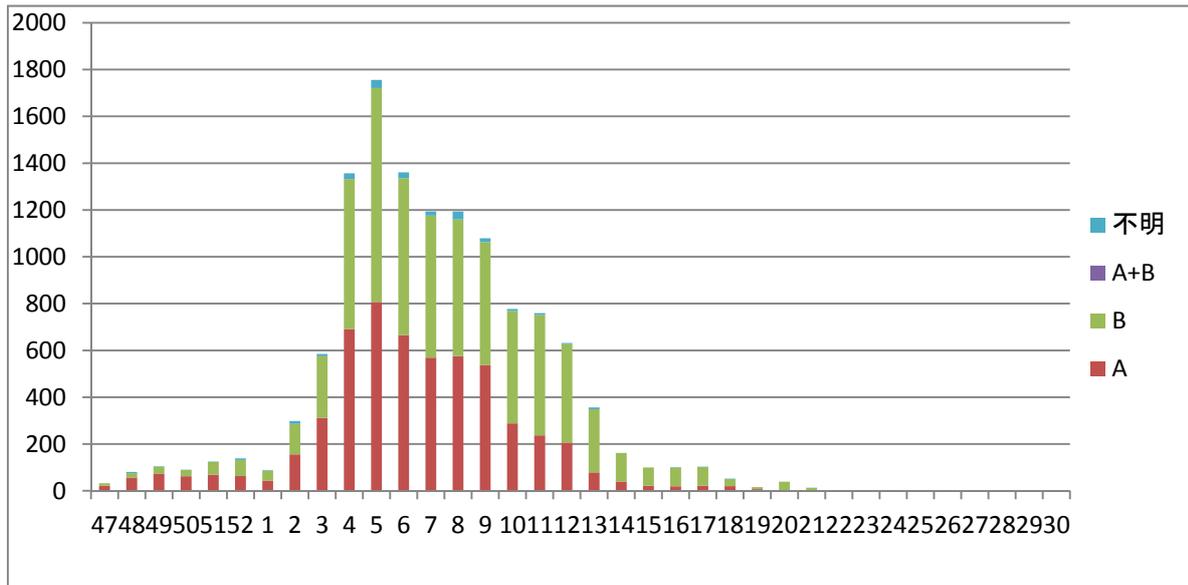


図1 2013/14 シーズンにおけるインフルエンザ患者発生状況

表1 インフルエンザ集団発生施設別発生状況

施設	臨時休業数	患者数	措置		
			休校	学年閉鎖	学級閉鎖
幼稚園・保育園	38	473	8	0	30
小学校	209	1984	3	69	139
中学校	60	418	1	16	43
高等学校	18	102	0	2	16
短期・大学、他	1	0	0	1	0
計	326	2977	12	88	228

2) ウイルス検出状況

① 散発事例における検出状況 (図2)

週	2013年 9月				10月				11月				12月	
	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
報告数	0	0	0	0	0	0	0	12	19	9	5	32	81	105
定点当たり患者発生数 (人/定点)	0	0	0	0	0	0	0	0.31	0.49	0.23	0.13	0.82	2.08	2.69
検出数計								4	1		3	2	1	2
内訳	AH1pdm09													
	AH3亜型													
	B亜型													

[事例・資料]

2014年 1月				2月				3月				4月							
50	51	52	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
90	125	139	89	298	585	1357	1757	1361	1194	1195	1079	777	759	632	356	162	100	100	104
2.31	3.21	3.56	2.28	7.64	15.00	34.79	45.05	34.9	30.62	30.64	27.67	19.92	19.46	16.21	9.13	4.15	2.56	2.56	2.67
3	5	3		3	4	3	2	3	3	4	3				1		1	3	2
				1		1	1	3		3									
1	4	1		1	3	1	1		1		2				1		1	1	1
2	1	2		1	1	1			2	1	1							2	1

5月			6月			7月			8月									
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
52	15	39	13	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
1.33	0.38	1	0.33	0.05	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2																		
2																		

図2 2013/14 シーズンにおけるインフルエンザウイルス検出状況

②集団事例におけるウイルス検出状況 (表2)

事例番号	管轄保健 福祉事務所	発生地、施設名	検出・分離数	検体数	型
1	2013.10.23	佐賀中部 佐賀市、中学校	9	12	B亜型
2	2013.12.03	唐津 唐津市市、小学校	2	3	AH3亜型
3	2013.12.13	鳥栖 鳥栖市、小学校	6	9	B亜型
4	2014.01.14	杵藤 鹿島市、中学校	2	4	AH3亜型
5	2014.01.14	伊万里 伊万里市、高等学校	2	7	AH3亜型

○考察

2013/14 シーズンにおけるインフルエンザの流行は、2月中旬をピークとする従来型の冬季流行パターンのピークが1月下旬にシフトしていた。今後ともインフルエンザウイルスの大流行と各亜型による変異株の出現に備え、ウイルス病原体の迅速な検出と分離および遺伝子学的な解析を継続的に実施していくことが重要であると考えられる。